



合併10周年記念特別対談

高校生からみる
二本松市の

今そして未来

～「市長×高校生」未来へ向かって～

合併10周年を記念して、これからの二本松市を支える市内の県立高校(安達高校・二本松工業高校・安達東高校)に通う生徒代表と市長が、二本松市の今と未来について対談しました

高校生イチオシの

二本松

【市長】まずは「今の二本松について」ということで、皆さんが市外の友達に二本松のイチオシを紹介するとしたら何になるか教えてください。

【古山】菊人形です。たくさん菊や人形に、外国の方もきつと驚くと思います。

【佐藤】僕は提灯祭りです。提灯に火が灯された夜の太鼓台は、必ず見物した人を魅了するはずですよ。

【鈴木】私は岳温泉です。多くの旅館が集まる温泉街では、自分にあった温泉を見つけることができ、家族や友達とおいしいものを食べたりして、とてもリラックスできると思います。

【市長】岳温泉は酸性泉ですが、隣の大玉村の温泉はアルカリ性泉です。こんなに近くに酸性とアルカリ性の2種類の温泉があるのは珍しく、ある旅行会社の女性が「大玉村の温泉に入って、その後すぐに岳の温泉に入ったら、抜群にお肌がツルツルになり、これはすごいと驚かれました。また二本松市には、伊達政宗が戦で負った傷

を癒したといわれている名目津の湯もあり、ここは川沿いで景色が良く、秘湯ですので皆さんにぜひ行ってほしい場所です。

若者たちが交流できる場をつくりだそう

【市長】逆に、現在二本松に住んでいて、不安なことや気になることはありますか？

【佐藤】二本松に限った事では無いのですが、不審者が絶えないことです。学校で不審者が出たという情報を聞くと、男の僕でさえとても怖いです。

【市長】安心・安全は基本ですので、これから新5カ年計画の中で、特に通学路を重点に街路灯や防犯カメラを設置して、監視ができる体制を強化していきたいと考えています。

【鈴木】私は市内のまちなかに、若者が良い雰囲気が集まれる場所があると良いと思います。駅の近くで若い人たちがたむろしている姿をよく見かけますが、あまり良くないと感じています。

【市長】確かに高校生は市外からも集まって来ているので、そういった若者が皆で気軽に



しんの ひろし
新野 洋 二本松市長

- ▶安達高等学校卒業
- ▶趣味はテレビでのスポーツ観戦
- ▶特技は「いつも元気！」(笑)



ふるやま えりか
古山 枝里香さん

- ▶安達高等学校3年
- ▶山岳部に所属
- ▶趣味はウインドウショッピング
- ▶特技はエレクトーンを弾くこと、反復横跳び
- ▶将来の夢は福島のみちおこしに関わること



楽しく交流できる場所がある
 といいですね。そういう場所
 があることで、若者の犯罪防
 止にもつながり、まちに賑わ
 いができるのかもしれない。
【吉山】私が感じていることは、
 震災で多くの浪江町の方が二
 本松市内の仮設住宅で暮らし
 ているのに、二本松市民との

交流の場がほとんど無いとい
 うことです。同じ二本松に暮
 らしているのに、お互いにお
 互いを知らないでいるのはあ
 まり良くないことです。私は
 ボランティアをしていて、避
 難されている方と触れ合う機
 会がありました。そういつ
 た活動がなければ、触れ合う

機会は今ありませんでした。
【市長】今言われたように、特
 に若い人たちが浪江の方と交流
 する機会は非常に少ないと私
 も思っていました。年配の方々
 は、一緒に農作業をしたり、何
 かイベントがあると招待したり
 と、ある程度交流の場をつくっ
 ています。しかし、日常ずっと交
 流があるかというところではな
 く、その時だけとなってしまう
 ています。これからはもっと、
 特に若い人たちが交流できる場
 を増やせるよう考えていきます。

**人が集い賑わうまちに
 なるといいな**

【市長】次に、これからの二本松
 について話をしたいと思います。
 まずは、二本松市が「こんなま
 ちになるといいな」という皆さ
 んの思いを聞かせてください。

【吉山】学生や主婦などが気軽
 に立ち寄って、話などができ
 る場所が増えればいいなと思
 います。学校が終わってどこ
 かへ行こうとすると、コンビニ
 やラーメン店しかなく、休憩
 できるカフェが市内にはあま
 り無いからです。また、せつ
 かく観光資源がたくさんある

のだから、より多くの人に二
 本松を訪れてもらえるまちに
 なってほしいと思います。

【鈴木】友達と話をすると、二
 本松に残りたいと思っている
 人が少なくなってきたらと
 最近感じています。二本松市
 には、自然や昔からの伝統文
 化などがたくさんあります。

ですから、今年の4月から行
 われたデスティネーションキャ
 ンペーンのような、自分のま
 ちをアピールする機会を増や
 していけば、他県からもたく
 さんの方に来てもらうことが
 でき、賑わいのあるまちにな
 るのではないのでしょうか。今
 住んでいる人たちも自分のま
 ちが好きになって、二本松に
 残りたいと思うはずですよ。

【佐藤】僕は、二本松は一つ二つ
 の施設などが遠いので、バス
 などの公共交通機関が増えた
 らいいなと思っています。また、
 単純に人が増えていて欲しい
 と思います。人が増えればお
 店が増えたり大きくなったり
 して、より便利で住みやすい
 まちになると思うからです。



さとう なおき
佐藤 直希さん

- ▶ 二本松工業高等学校 3年
- ▶ 生徒会長を務めている
- ▶ 趣味はご飯を食べる事
- ▶ 特技は無い
- ▶ 将来の夢は宇宙ソーラーパネルの仕事に携わること



すずき あかり
鈴木 亜香里さん

- ▶ 安達東高等学校 3年
- ▶ 生徒会と情報処理は音
 好会に所属
- ▶ 趣味は音
 楽鑑賞(日本のバンド)
- ▶ 特技は暗記をすること
- ▶ 将来の夢は、自分
 の理想の家を建てること

人口を増やすためには 若者の定住がポイント

【市長】佐藤君から今、人口が増えている欲しいという思いを聞かせてもらいましたが、それでは、どうすれば二本松市の人口が増えるかと皆さんは考えますか？

【佐藤】二本松市で起業ができる機会(場)を増やせばいいと思います。それに併せて、住宅地を増やしていくことも大事だと考えます。

【古山】私は、「子育てのしやすいまち」として政策を打ち出し、それを外へ広めていくことが効果的だと考えます。また大学などの学校ができる、地元からの若者流出に歯止めがかかり、逆に外部から住み着く人も増えるので、一石二鳥だと思います。

【鈴木】空き店舗などを利用して若者が交流できるような場所をつくり、若い人たちが少しでもこのまちに残りたいという気持ちを持ってもらうことが大事だと私は思います。



これからも住み続けたいと思うまちへ

【市長】古山さんと鈴木さんが「若者が流出しない」「若者が交流できる」と言われましたが、やはりまちを活気づけるには、若者の力は大きいと思います。そこで、高校生の皆さんからみた、若い人が魅力を感じるまちとはどのようなまちなのか聞かせてください。

【古山】二本松市には、豊かな自然がたくさんあります。その自然と融合したおしゃれな街並みや魅力的なお店があり、交通の便がいいまちが、魅力的で住んでみたいと思えるまちだと私は思います。

【佐藤】お店やスポーツ施設など、楽しい空間が増えれば、若者も増えると思います。

【鈴木】ショッピングモールがあったり、食事のできるお店などがたくさん増えれば、おのずと若い人たちが増えてきますし、もしショッピングモールができたなら、私は毎週買い物に行くと思います(笑)。



【市長】まずは今住んでいる人たちがこれからも住み続けたいと思えるまちづくりを目指すことが大事で、そのための具体的な方策について、皆さんからさまざまな意見を出していただきました。これからまちづくりにも、非常に参考となる意見だったと思います。



結婚・出産 みなさんの将来は

【市長】ちよつと先の話になりますが、高校生の皆さんは、結婚をいつ頃したいと考えていますか？

【古山】大学に進学して、卒業後3年ぐらい仕事をした後に結婚できればいいなと思っています。

【佐藤】僕は大学を卒業して、30歳ぐらいまでには結婚したいですね。

【鈴木】私は来年4月に就職するので、5年ぐらいはちゃんと仕事をして、25歳〜30歳ぐらいに結婚して、結婚した後も仕事は続けたいと思っています。

【市長】鈴木さんが言われたように、今は共働きが普通

で、その中でいかに協力し支え合えるかがとても大事ですね。私の兄は子どもが10人います。たくさんの子どもの育てることについては、やはりお金が大変だという不安は必ずあると思いますが、私も、私の兄も、子どもを育てる際に奨学金を活用したりして、私からは仕送りをすることなく学校を卒業させることができました。また私の兄の子どもたちは、下に弟や妹ができると、上の子どもたちが自分よりも小さい子の面倒を見てくれ、親が手を掛けることなく子どもたちは成長してくれたと聞いています。皆さんも将来、子どもを産むことにためらいや負担を感じた時は、今の私の話を少しでも思い出してもらえるとうれしいですね。

高校生から 市長へ質問 市長の夢

【事務局】せっかくの機会ですので、高校生の皆さんから市長に質問したいことがあればおっしゃってください。

【佐藤】市長として活動する中で、

一番大変なことは何ですか？

【市長】私はプレッシャーを感じない人間なので、あまり大変だと思えることはないのですが、色々やるのがたくさんあるにしろ時間は足りないですね。365日ほとんどノンストップで、たいがい夜も会議が入ります。自分の時間が無いのは仕方ないことですが、二本松市を良くするためにやりたい事が一杯あるにしろ、それを全部やるためには、時間が足りないなど感じているのが一番です。足りない時間の中で、色々な事を全て最終決断として判断しなければならぬ責任が市長にはありますが、やはり一番良い決断をするには時間が必要です。ただ時間は止めることも増やすこともできないので、もう一人新野洋がいたら助かるなど考える時があります(笑)。

【鈴木】市長になって、一番良かったと思うことは何ですか？

【市長】市長になってから、いろいろな素敵で魅力のある人に会うことができたことですね。そしてその人たちが、いろいろななかたちで応援し協力してくれています。二本松市

を良い方向にもっていこうと一緒に動いてくれる、思いが

繋がる人がこんな一杯一杯という感じがすごく嬉しいし幸せなことです。全国の市長の中で私は一番幸せな市長かもしれません。

【古山】市長の夢は何ですか？

【市長】少し難しい話になってしまいますが、これから百年も経つと、私が市長だったなんてことは誰も分からなくなっています。もっと時間が経つと、私という人間が存在していたことすら誰も分からなくなってしまうでしょう。でも、私が市長として取り組んだ仕組みづくりや制度が受け継がれ、二本松市にプラスになっていろいろな人々に良い影響を与え、それが脈々と続いていくことが私の夢かな。私の生き残った証が、時間が経つてもいろいろな人を幸せにすることができれば、こんなに嬉しいことはないですね。



高校生3人

それぞれの夢



【市長】私の夢についてお話しをさせていただきましたが、皆さんの将来の夢は何ですか？

【古山】福島のみちおこしに関わりたいたいと思っています。私は商店街に住んでいるのですが、家の周りではだんだんお

店が無くなり、駐車場になったりして、どんどん活気がなくなってしまうと身をもって感じていきます。昔のようには言わないまでも、賑わいが戻り、和気あいあいとしているようなまちにして、福島復興にも関わられたらいいなと思っています。

【市長】皆さんのような年代の時にひらめいたことや思ったことを、ずっと追いかけた人がノーベル賞を受賞したりしていますよね。夢は実現するのになかなか難しい。夢を追う途中に何度も壁にぶつかって、諦めてしまう人が多いのですが、そこで右に行こうか左に行こうか選択しながら前に進む人は、最終的に目的を達成できます。夢を諦めないで、ぜひ二本松市出身のノーベル賞受賞者となってください。

せん。すぐにも市職員になってもらいたいくらいです(笑)。

【佐藤】僕は、宇宙ソーラーパネルの仕事に携われたらいいなと思っています。詳しいことは正直分かっていないのですが、自分の将来の職業を考えた時、

【市長】女性で自分の家を建てるといふ夢は素晴らしいですね。今は洋風の家が増えてきているので、和洋折衷はすごく素敵だと思います。



「幸せ」とは、いつも笑顔でいられること

【市長】皆さんにとって「幸せ」を感じる時はどんな時なのか教えてください。

【古山】笑顔があふれること、ありふれた日常を当たり前に過ごせることです。

【佐藤】ご飯を食べたり、学校に行ったり、人と話したりなど、普通の事を日常として過ごせていることが、今自分にとっての一番の幸せだと思います。

【鈴木】私の家では、毎日家族が会話をしながら、楽しくご飯を食べています。そういった当たり前のことが、幸せなのだと思えます。

【市長】素晴らしいコメントですね。物事の考え方は、今皆さんが言うとおり、結局「今が幸せなんだ、これでいいんだ」と思えるか思えないかなんだと思います。上を見る人はいくらでも上を見ようとしています。そういう人は、あるところまで到達しても、またさらに上を見ようとして、結局は幸せに到達できず終わってしまいます。けれど「マイナスに物事を考えず、「これでいいんだ」と思える事が大

切なのだと思えます。

皆さんのように、今が幸せだと考えることはすごく良いことで、そう思っていると、これからもたくさん幸せなことが舞い込んでくると思います。

住むならやっぱり二本松がいいな

【市長】皆さんは、やはり都会の生活に憧れますか？

【佐藤】都会はお店がたくさんあって良いのですが、人が多すぎるので疲れてしまいます。住むならやはり、のんびりした田舎が良いです。

【鈴木】田舎暮らしは交通面で不便なところはありますが、四季の移り変わりを肌で感じる事が出来るのは、ここに住んでいるからこそです。都会ではそういったものを感じることができないと思います。

【古山】都会への憧れはあります。しかし、挨拶をしたり野菜をもらったりするといった近所付き合い合いなど、日常の温かさ、そして山も川もある自然に囲まれた田舎での生活は気持ちがいいし落ち着きます。だから、これからも二本松に住み続けたいです。



【市長】本当に嬉しいコメントですね。よく二本松は勤める場所が無いと言われますが、二本松には4人以上従業員を雇っている会社が172社あります。

これは県内13市の中でも上から5番目です。だから、しっかりとリサーチすれば、自分に合う会社が二本松にもいっぱいあると思います。都会への憧れだけで出ていくと、今皆さんが言われたように、近所付き合いもなく、だんだん寂しくなっていくてしまうこともあるでしょう。だから、二本松のような自然豊かなところで、仲間と明るく楽しく過ごしてもらって、「二本松を何とか元気にしていこう」と若い方たちが立ち上がってくれば、より二本松が良い

方向にいくと思えます。皆さんのような若い世代に、良いかたちでバトンタッチできるような、私も今の二本松をさらに元気にしていきたいと思えます。成長した皆さんが、二本松市の中心となって活躍される日を楽しみにしています。

今日は皆さん、ありがとうございました。

「市長」というと、やはり硬いというイメージがあったのですが、実際に話してみると全然そんなことはなく、手の上で話をするのがとても話が合えるな気がしました。今回のように市長と若者が触れ合える機会が増えていけばいいな思いました。



対談後記

市長はすごく熱い思いをもっている方でした。市長の夢をお聞きしたとき、常に二本松のことを考えていてくれていて、この人が市長で本当に良かったなと思いました。また他校の同年代の方と夢を語り合えたことは、自分にとってとても刺激になりましたし、もっと頑張らなければいけないと感じることができました。



今回の対談は、自分の住むまちについて深く考えることができ、自分の将来を考える上でとても良い機会となりました。また市長は、二本松のことを一番に考えていて、頼れる二本松市のリーダーだと実感しました。

